

生活感ない通帳は用心

日本から送金が多い東南アジアの大手銀行でマネーロンダリング対策の責任者を約2年半務め、現在、日本資産運用基盤で金融機関向けコンサルティングにあたる石尾弘和氏(60)に注意点を聞いた。



一、前職では日本から母国への郷里送金を中心に、窓口だけで多い日に約100件の海外送金を扱った。受付時に注意したのが、給与振り込みなどの生活感に乏しい通帳。不法滞在者から依頼された可能性があり、資

金の出所確認を徹底していた。厳格な対応を取れば不審な客は減っていく。

一、送金



日本資産運用基盤の石尾氏に聞く

目的は裏付けとなる書類で判断する。貿易決済は原産地証明書や船荷証券。教育費であれば入学許可証、不動産購入は契約書や物件の見取り図などの提出を求めている。何を確認すべきか理解することが大切だ。

一、外銀では疑わしい場合、過去の取引も全て確認する。悩ましいのは一見客。一律に断らず、提出書類から見極める必要がある。応対中でも違和感があれば自分で判断せず上司に報告すべきだ。1回の送金で、築いた信用を失うこともある。ま

ずは経営トップが厳格に臨む方針を明確に示し、研修などで従業員に徹底してほしい。